

1-(1) 法人本部／東京国際大学

I. 2018年度（平成30年度）事業の概要

東京国際大学は「公德心を体した真の国際人の養成」を建学の精神に掲げ、建学時からの教育目標である「Vision, Courage, Intelligence を身に付けた人材づくり」を具現化するために、「スポーツの東京国際大学」「英語力の東京国際大学」を柱とした教育事業展開を強力に推進している。

「スポーツの東京国際大学」に関しては、最高レベルの施設環境のもと、世界レベルの指導陣により展開される強化クラブ事業を中核に据えている。アスリート学生の学業面の支援体制は、人間社会学部のスポーツ2学科が中心的役割を担いつつ、全ての学部で受入を行っている。2018年（平成30年）5月時点の体育会系クラブ所属学生数は1,290名、全学部所属学生の20%にのぼった。

「英語力の東京国際大学」に関しては、大学の更なるグローバル化を目指し多様な施策を展開している。2014年度（平成26年度）にスタートした英語で学位取得可能な「イングリッシュ・トラック・プログラム（Eトラック）」には、2018年（平成30年）10月時点で世界58ヶ国から864人の学生が在籍、キャンパスのグローバル化に大きく貢献している。英語ネイティブ語学教員組織グローバル・ティーチング・インスティテュート（GTI）は、54人規模に拡大し、姉妹校ウィラメット大学におけるアメリカン・スタディーズ・プログラム（ASP）留学プログラムとの連動等、英語教育指導体制の強化に取り組んでいる。ASP以外にもISEP交換留学をはじめ多様な留学プログラムを拡充し、学生の多様な留学ニーズに対応している。

建学の精神「公德心を体した真の国際人の養成」に立脚した教育・啓蒙活動を推進している。日本文化研究所では、「日本の文化と世界」を共通テーマとする講演会を開始、日本文化を核とした国際人養成教育・公德心教育を展開している。本学主催の国際シンポジウムは日米の碩学を招き第7回目の開催となった。

副都心池袋に本学のグローバル教育機能を集約した都市型国際キャンパスを開設する。2020年（令和2年）10月に土地の引渡しを受け、2023年（令和5年）9月開校を予定する。新キャンパスには、Eトラックをはじめ本学のグローバル教育機能を集約し、川越キャンパスの収容定員約7,000人のうち3,500人を移転する計画である。学生数3,500人のうち2,000人は、100ヶ国超からの留学生で構成するほか、世界各国から教員・研究者を招聘し、国策に沿った国際ブレイン・サーキュレーション拠点を構築する。川越キャンパスとは東武東上線・東京メトロ有楽町線一本で接続され、川越キャンパス、坂戸キャンパスと池袋国際キャンパスを結ぶ各種プログラムの開発も進める。池袋に都市型国際キャンパスを構築することにより、川越・坂戸キャンパスと一体化されたグローバル化教育の基

盤を一層強固なものにする。

II. 事業項目

1. 教育内容の充実

(1) 「スポーツの東京国際大学」の推進

① スポーツ振興のための組織体制

実施事項：	強化クラブ及び人間社会学部スポーツ2学科を軸としたスポーツ振興。
事業内容：	<ul style="list-style-type: none"> ● 本学強化スポーツクラブは、最高水準の指導者、最高水準の施設環境のもと、学生競技における最高レベルの成果達成を追求し、そのなかで学生の全人格的成長を促す。 ● サッカー部、女子サッカー部、駅伝部、ウエイトリフティング部、硬式野球部、女子ソフトボール部、ゴルフ部、硬式庭球部、アメリカンフットボール部、剣道部、チアリーディング部、アーチェリー部を強化スポーツクラブに指定。 ● 17万㎡（東京ドーム4個分）の坂戸キャンパス総合グラウンドはプロ仕様の施設を完備している。 ● 強化クラブ拡充に呼応して、アスリート学生の学業面での専門性向上を図るため、人間社会学部に人間スポーツ学科、スポーツ科学科を設置している。

② スポーツ庁委託事業「大学横断的かつ競技横断的統括組織（日本版NCAA）創設事業（大学スポーツ振興の推進）」

実施事項：	「大学横断的かつ競技横断的統括組織（日本版NCAA）創設事業（大学スポーツ振興の推進）」
事業内容：	<ul style="list-style-type: none"> ● 平成30年度スポーツ庁委託事業に本学提案「国際スポーツアドミニストレーター育成のための基礎作り」が採択された。 ● 国策スポーツ立国に寄与するとともに、我が国の大学スポーツ施策を統括する組織に必要とされる人材、「国際スポーツアドミニストレーター（ISA）」育成の基礎づくりを目的とする。 ● 理事長・総長直轄の「国際スポーツ推進機構」を設置、本事業の中心的役割を担う。

(2) 「英語力の東京国際大学」の実践

① イングリッシュ・トラック・プログラム (Eトラック) 拡充

実施事項：	英語で学位取得が可能なEトラックを学部・大学院に設置、世界各国から留学生を受入れキャンパスのグローバル化を推進。
事業内容：	<ul style="list-style-type: none">● 学部では、2014年度（平成26年度）より経済学部及び国際関係学部横断でEトラックを設置、「Business Economics Major」及び「International Relations Major」の二専攻で学生を募集している。● 大学院では、経済学研究科、国際関係学研究科にてEトラックを設置している。2018年度（平成30年度）には商学研究科にもEトラックを開設し、学生募集を開始した。● 春・秋二回の入学受入を行う態勢とし、2018年（平成30年）10月時点で、世界58ヶ国から864人の学生が在籍している。● Eトラック推進のため、教員組織の強化に加え外国人職員の採用等事務局体制の強化にも取り組んでいる。● ベトナム、インドネシア、タイに現地事務所を開設する等、世界各国からの学生募集に積極的に取り組んでいる。

② 国際学生寮増強

実施事項：	Eトラック入学者の増加に対応し、国際学生寮を増設。
事業内容：	<ul style="list-style-type: none">● 海外から直接来日する留学生全員を国際学生寮に受け入れる態勢をとっている。入学者増に対応し、逐次国際寮の増設に取り組んでいる。● 留学生の生活支援のため、日本人学生等によるレジデント・アシスタント (RA) 制度を導入している。RA学生の英語力・コミュニケーション能力向上も企図している。

③ グローバル・ティーチング・インスティテュート (GTI) 事業展開

実施事項：	英語ネイティブ語学教員組織グローバル・ティーチング・インスティテュート (GTI) による英語教育強化。
-------	--

事業内容：	<ul style="list-style-type: none"> ● GTI所属英語ネイティブ教員は54名の体制。 ● 学長直轄組織として活動対象は言語コミュニケーション学部にとまらず、Eトラック、国際関係学部、経済学部の英語教育も担当している。2018年度（平成30年度）には、人間社会学部のグローバルスポーツ・プログラムの担当もスタートした。 ● 60分週3回、1クラス10人前後の米国型語学教育を導入し、英語スキルの向上に取り組んでいる。 ● 第1キャンパス内に英語専用ラウンジEnglish PLAZAを設置、GTFを常駐させ、授業時間以外でも英語力鍛錬可能な環境を整備している。
-------	--

④ ジャパニーズ・ランゲージ・インスティテュート（JLI）の事業展開

実施事項：	日本語教育組織ジャパニーズ・ランゲージ・インスティテュート（JLI）によるEトラック学生の日本語教育強化。
事業内容：	<ul style="list-style-type: none"> ● Eトラック学生の日本語スキル向上のため、日本語教育組織JLIを設置している。 ● JLIは、Eトラック及びジャパン・スタディーズ・プログラム（JSP）在籍学生の日本語教育を専担する。

⑤ アメリカン・スタディーズ・プログラム（ASP）の充実

実施事項：	ウィラメット大学で開講されるアメリカン・スタディーズ・プログラム（ASP）を本学の旗艦留学プログラムと位置付け、GTIによる教育との連動等教育効果の向上を図っている。
事業内容：	<ul style="list-style-type: none"> ● 創学以来の姉妹校ウィラメット大学（米国オレゴン州）にて開講されるASPには、毎年約100名の学生が参加し、約1年間の留学を経験している。GTIにおける教育とも連動させ、本学グローバル化教育の柱となっている。 ● 2019年（令和元年）プログラムは、JASSOより70名の奨学金支給枠（月額8万円）の対象として採択されている。 ● 留学による学修成果を強化するため、事前事後学修を導入している。

(3) 建学の精神「公德心を体した真の国際人の養成」に立脚した教育・啓蒙活動の推進

① 日本文化研究所主催の教育・啓蒙活動の推進

実施事項：	日本文化を核とした国際人養成教育・公德心教育の展開。
事業内容：	<ul style="list-style-type: none"> ● 「日本の文化と世界」を共通テーマとする講演会を開催。 ● 2018年度（平成30年度）講演者は、千玄室氏（利休居士第十五代・裏千家前家元）、加地伸行氏（大阪大学名誉教授）、小堀桂一郎氏（東京大学名誉教授）。

② 国際シンポジウムの定例開催

実施事項：	第7回国際シンポジウム「日本と世界 Part4」を開催。
事業内容：	<ul style="list-style-type: none"> ● 高村正彦自由民主党前副総裁、ハーバード大学ジョセフ・ナイ教授、外交評論家・MIT国際研究センターシニアフェロー岡本行夫氏による講演・パネルディスカッションを実施。安全保障に関連した諸問題について活発な議論が交わされた。

(4) キャンパス内外におけるジェネリック・スキルの涵養

① 文部科学省「地（知）の拠点整備事業（COC）」

実施事項：	「小江戸かわごえ」グローバル人財育成による「まちおこし」プログラム。
事業内容：	<ul style="list-style-type: none"> ● 文部科学省「地（知）の拠点整備事業（COC）」に採択されたことを契機に全学的に取り組んでいる。 ● 地域でのフィールドワークやインターンシップ等、多様な体験型学修を組み込んでいる。 ● 地域を越えたまちづくりコンテストにも積極的に参加、コンテストでの受賞にもつながっている。

② 国際関係学部「観光立国プログラム」

実施事項：	JTB総合研究所との産学連携による、「観光立国プログラム」の拡充。
事業内容：	<ul style="list-style-type: none"> ● JTB総合研究所の実務家を招き、観光に関する実践的教育コンテンツを整備した。 ● MICE産業論や、JTBグループと連携したインターンシップ等、先端的・実践的プログラムも設置し、「観光立

	国」を担う人材の育成に取り組む。
--	------------------

③ 学生スタッフ成長プログラム

実施事項：	大学内で働く学生を計画的に育成していくことにより、学生の力を大学で活用していくとともに学生自身の就業力を強化する。
事業内容：	<ul style="list-style-type: none"> ● 大学生生活デザイン演習の授業サポートを担うステューデントファシリテーター（SF）を拡充してきている。 ● また、キャンパスのグローバル化推進に学生スタッフを全面的に巻き込むため、ステューデント・リーダーシップ・インターンシップ（SLI）も推進、English PLAZA やJapanese PLAZAの運営等に中核となって参加している。 ● 学生スタッフを育成し活用していくために「学生スタッフ成長プログラム」を導入。SFやSLIメンバー、オープンキャンパス・スタッフ等が参加している。 ● ジュニア・ミドル・トレーナーという3段階のレベルを設定し、能力向上を促進している。

2. 卒業後進路の開発

(1) 就職支援体制の強化

実施事項：	就職先マッチング態勢の強化、スポーツ系クラブ学生へのサポート、Eトラック学生への就職支援体制整備。
事業内容：	<ul style="list-style-type: none"> ● 就職先マッチングを専門に行うカウンセラーを配置した。 ● 体育会学生に対しては、スポーツ関連企業等その特長を活かした進路を選択し、専門のカウンセラーがサポートする体制を敷いている。 ● Eトラック学生に対しては、一年次から就職ガイダンスを実施、日本企業への就職にむけた心構えを植えつけていく。また、インターンシップ・プログラムも拡充している。

(2) 教職支援センターの設置

実施事項：	教員志望の学生に対する情報提供、教員採用試験受験の支援のため2018年度（平成30年度）教職支援センターを設置。
-------	--

事業内容：	<ul style="list-style-type: none">● 教育行政に永年勤務経験を持つ指導員が常駐。● 教員採用試験に関する個別相談、教員採用に関する情報・資料提供、教員採用試験に関する対策講座等の開催、「教職支援セミナー」の開催等。

3. 将来展開に向けた施策

(1) 池袋国際キャンパス建設計画

① 計画概要

設置プログラム、学部等	Eトラック（経済学部、国際関係学部、大学院） 言語コミュニケーション学部	
校地	地区名	豊島区造幣局地区（市街地A画地）
	所在地	東京都豊島区東池袋四丁目3277番202の一部
	地積	10,000.05 m ²
	引渡し	2020年10月
	階数	地上22階
	延床面積	約35,000 m ²
	工期	2020年11月～2023年5月
	開校	2023年9月
	学生定員	3,500人 (内訳) <ul style="list-style-type: none"> ・経済学部Eトラック：1,400 ・国際関係学部Eトラック：920 ・言語コミュニケーション学部：1,000 ・商学研究科Eトラック：80 ・経済学研究科Eトラック：50 ・国際関係学研究科Eトラック：50

② 機関決定の経緯

2013年5月29日	理事会にて「都市型国際キャンパス」の構築を決議
2017年7月3日	理事会にて「都市型国際キャンパス」用地取得及び校舎建設について決議
2017年10月23日	理事会にて豊島区造幣局地区（市街地A画地）土地譲渡契約の締結を承認
2017年11月7日	独立行政法人都市再生機構との間で土地譲渡契約を締結
2018年1月12日	理事会にて池袋国際キャンパス建設に係る設計・監理契約の締結を承認
2018年4月9日	理事会にて池袋国際キャンパス収容定員構成計画及び学部入学定員中期拡充計画を決議
2019年3月14日	理事会にて池袋国際キャンパス建設に係る工事請負契約の締結を承認

(2) 学部学科の新設等

① 理学療法学科の設置申請

理学療法学科の設置認可申請準備に着手している。

2 - (2) 東京国際大学附属日本語学校

I. 2018年度（平成30年度）事業の概要

全日制の課程を特色とする「進学に強い日本語学校」としての教育の質を維持しつつ、ベトナム等東南アジアからの学生が中心の半日制の課程においても、選考を厳格化し、指導に注力した成果が出てきており、国立大学合格など進学実績を上げつつある。

II. 事業項目

1. 正規課程 入学者数実績

課 程	日本語教育課程A	準備教育課程※	日本語教育課程B
授業時間	全日制(週 26 コマ)		半日制(週 20 コマ)
入学時期	4 月 (1 年コース) 130 人		4 月(1 年、2 年コース) 60 人
就学期間	7 月 (1.9 年コース) 27 人		10 月 (1.5 年コース) 22 人
	10 月 (1.5 年コース) 86 人		
合計	325 人		

※準備教育課程：高校修了まで12年を要しない国の学生を対象として、日本の大学入学資格を与えるための、文部科学省の指定を受けた課程。2018年度入学者数実績10人。

2. 短期聴講 (1か月～3か月)

- ・4、7、10月の正規課程に先立ち、1、4、7月から3か月間聴講する学生が多い
- ・入学者数実績 合計26人、内訳：4月9人、7月4人、10月1人、1月12人

3. 進路指導

- ・第1回進路ガイダンス(大学、専門学校、就職など進路希望別に実施)
5月～6月、計7回開催、参加学生数延べ183人。
- ・第2回進路ガイダンス(大学進学希望者向けに実施)
7月～8月、計3回開催、参加学生数延べ86人。
- ・校内進路説明会・相談会
7月4日開催。大学7校、専門学校10校、就職斡旋業者1社を招き開催
参加学生数217人。
- ・個別指導
進路指導室職員と担任教員による随時の指導/相談に加え、教務主任と事務局長による本番を想定した面接指導を行い、万全の体制で進路指導を実施。
- ・2018年度卒業生の進路別内訳は以下のとおり。

大学院	大学	専門学校	就職	帰国	その他	計
2人	56人	89人	15人	60人	20人	242人

I. 2018年度（平成30年度）事業の概要

I-1. 外部環境の変化と本学院の対応

18歳人口が減少し大学全入時代が叫ばれる一方、昨今の文部科学省による「入学定員抑制策」の結果、首都圏上位私立大学における合格者数は絞り込まれ、それらを志望する受験生のハードルは上がっている。

大学受験業界でも、河合塾、駿台予備学校といった大手に加え、高卒生向けには四谷学院など少人数教育・個別指導をうたう予備校が台頭し、また高校生向けには東進ハイスクールや河合塾マナビスなど駅近映像授業方式の予備校の展開が進むなど、競争環境の激化が続いている。

そうした受験生に対し本学院では、①少人数教育、②双方向ライブ授業、③毎朝テストなど豊富なアウトプット量、④厳選されたプロ講師、⑤プロチューターによる丁寧なケア、を旗印に他校との差別化を図ってきた。

I-2. メディカル・コネクト立ち上げ準備

急速に進む少子高齢化の中での高齢者医療や在宅医療の需要の高まり、過疎化等による医師不足問題が深刻化しつつある。

こうした中で、本法人の教育理念である公德心を備えた医師を育成するため、従来の「プライム国立大医進クラス」による実績を踏まえて2019年度より新たな医学部進学専門予備校として「一橋学院メディカル・コネクト」を開校することとした。

開校に備え、カリキュラム・教材等の整備、校舎の改築、専門講師の採用、広告出稿等の立ち上げ準備を行った。

II. 事業項目

II-1 レギュラー授業

① 高卒生コース

- ・最難関大学を目指す「プライムクラス」から、高校ゼロベースからの再スタートを図る「ACTクラス」に至るまで受験生のニーズに応じたきめ細かなクラス編成を行い、各クラスに対応した幅広い講座を開講した。

② 高校生コース

- ・設置クラスは、原則難関～基礎で4レベル設定を行い、教科ごとに学力レベルや志望校に合わせた最適なクラス選択ができる編成を行った。
- ・特に高3生対象に東大・一橋大プライムゼミという特別カリキュラムも設置する一方、演習クラスである「個トレ（個別トレーニング）」も補完的に授業本体に組み入れられており、受験を迎える生徒・保護者のさまざまなニーズに応じている。

II-2 各期講習

① 春期講習

- ・高校の春休みを利用して、新学年の準備のために開催される講習会。
- ・期間が短いため新高1・高2・高3生に向けたコンパクトな講座（160分×2日＝320分）を設置し、短期間で高校生に本学院の授業の質の高さを実感してもらえるよう企画した。

② 夏期講習

- ・夏期講習期間は1ヵ月半にわたり、参加者も多い重要な講習であるが、近年、各高校が自ら夏期講習を実施するケースが増え、生徒募集に影響を及ぼしてきている。こうした状況において、大学受験を専門とする予備校ならではの魅力のある講座編成を行い、高校での講習との差別化を図った。

③ 冬期講習・直前ゼミ

- ・冬期講習・直前ゼミは、高校3年生、高卒生にとっては入試直近の時期のため、大学入試センター試験・志望大学対策をメインにした講座を設置し、実践力～合格力を養成した。
- ・高校1年、2年生の冬期講習参加者は新年度入学に直結するため早期から受験対策を図ることをアピールし獲得を図った。

II-3 イベントその他

① リアル入試センター試験

- ・「大学入試センター試験」当日の夜、同一問題を高校2年生に受験させる企画。
 - ・これにより、2年生時点での学力を把握し、志望校までの距離を確認することができて好評を博し、近隣進学校との良好な関係性を維持する一助となっている。
- 参加希望校も年々増加、8校で約2,000人の校外生を動員する規模となり、生徒募集上の効果も大きい。

② 2月スタートアップゼミ

- ・高校1年生・2年生を対象に、2月短期完結の講座を特別講習として設置。
- 新学年に向けた学力の向上と定着を図るとともに、新学年生徒募集のツールであり、実質全講座無料（手数料1,000円のみ）で実施。

③ 英検セミナー

- ・4技能重視型英語教育への移行、大学受験における外部試験導入を機に、年々高まりを見せる「英検取得」熱に応えることを目的に2017年度に設置。
- ・2018年度は年3回開催し、計82名（準1級：42名、2級：40名）が参加した。